

看護学生の私語の頻度と規範意識・社会的スキル・属性との関連¹⁾

—看護短期大学2年次後期終了後の検討—

鈴木 恵*・戸塚智美**・澤田和美*・椎野雅代*

Relation of Frequency of Nursing College Students' Whispering in Class to Factors of Their Normative Consciousness, Social Skills and Attribution: Investigation After the End of the Second Semester of Nursing Junior College

Megumi SUZUKI*, Satomi TOTSUKA**, Kazumi SAWADA*, and Masayo SHIINO*

Students' whispering in class, which is both in any universities and colleges has become an issue of public concern. This study aimed to discuss how the frequency of nursing college students' whispering in class was related to their normative consciousness about the issue of whispering in class, their individual motivation for having entered the college, social skills and attribution, and then clarify the factors involved in the problem of whispering in class. A self-administered questionnaire survey was conducted of the second-year students of a nursing junior college to investigate the factor structure of the frequency of whispering during class in terms of their normative consciousness about the issue of whispering in class, their motivation for having entered the college and their social skills. A multiple regression analysis was made using as the dependent variable the frequency of whispering. The results showed that the social skills, normative consciousness and family structure had an influence on the frequency of whispering in class.

key words: social skill, whispering, nursing students

問 題

授業中の私語は多くの大学で日常化し、次第に社会問題化している(浅井, 2006)。大学における授業中の私語は1960年代半ばから報告されてきた(島田, 2002)。私語に関する数多くの研究を手掛けているト部・佐々木(1999)によると、私語は「授業中に学生どうして交わされる私的な話」と定義されている。澤田・戸塚・鈴木・椎野(2012)は、授業中の私語は周囲の学生にとって授業内容を聞き逃

し集中度を奪う妨害行為であり、学習環境に支障を与える行為であると指摘している。そのような私語の原因として、授業中に友達のおしゃべりを断るのは相手に悪いという対人的要因が指摘されており(島田, 2002)、私語をする学生の7割は授業中の私語はいけなないと思いつつ行っている実態がある(岩淵, 1996)。このように、私語を行う学生の傾向として、出口・吉田(2005)は、規範意識が低く視点取得(他者の気持ちの想像と認知)が高いものほど私語を頻繁に行う傾向があることを指摘している。

¹⁾ 本研究の一部は、日本応用心理学会第80回記念大会において発表された。本研究の主旨をご理解頂き、調査にご協力頂きました学生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、お忙しい中ご指導賜りました、横浜創英大学看護学部星山佳治教授に深く感謝致します。

* 横浜創英大学看護学部

Faculty of Nursing, Yokohama Soei University, 1Miho-cho, Midori-ku, Yokohama, Kanagawa 226-0015, Japan

** 東京純心大学看護学部

また、小沢・大島・森本(2008)は大規模授業が私語を生みやすいことを提言し、大石(2013)は大学教員の教育技術や教員自身の魅力、さらには集団心理などの分析が大学の私語問題を考えるうえで必要であると述べている。また、私語による授業妨害を防ぐ手段として、これまでのレクチャー型授業が見直され、グループによる話し合いを授業の中心として学習者を授業に巻き込む授業形態や、eラーニングと実習を組み合わせた授業形態等が検討実施されている(向後, 2011)。

本学に入学してくる学生の多くは、看護師資格取得という明確な目的を持っている。看護師が円滑に仕事を遂行していくためには、患者や他の職員を理解し、信頼関係を築く高い対人関係能力が求められる。社会的スキルはそのような「対人関係を円滑に運ぶために役立つスキル」(菊池, 1988)とされ、看護学生は他学部に所属する学生と比べ、社会的スキルが比較的高いと指摘されている(野崎, 1999)。しかしながら、看護短大における授業中の私語の多さは例外ではなく、本学においても入学してから時間の経過とともに私語が増え、その対処に苦慮している教員も少なくない。

先述したように、一般大学における私語の要因は多方面から検討されている。一方で看護系大学の私語の要因は、末永・竹信・飯塚(2010)による私語の内容や私語に対する学生の意識調査が見受けられる。看護系大学における私語の要因を深く考察するにあたっては、大学教員の資質や授業形態など多方面から検討することが求められる。しかしながら看護系大学における私語に関する先行研究が少ないことや、出口・吉田(2005)による私語の頻度が個人特性に関連しているという報告に着目し、本研究では看護学生の私語の頻度と規範意識・入学目的・社会スキル・属性との関連に焦点を当て、授業中の私語の要因を検討することを目的とした。

調 査

方法

対象 A 看護短期大学2年次生 84名

調査時期 平成25年1月1日～31日

調査項目

1. 私語の頻度: 出口・吉田(2005)が作成した2尺度「授業内容に関係のある私語」「授業内容に関

係のない私語」、各9項目からなる尺度を一部改編して使用し私語の頻度を明らかにした。回答は「ぜんぜんしなかった」1点～「たくさんした」5点の5件法で、得点が高いほど私語の頻度が高い。

2. 私語に対する規範意識: 出口・吉田(2005)が作成した尺度を一部改編して使用し学生の私語に対する規範意識を明らかにした。この尺度は、「授業内容に関係のある私語」「授業内容に関係のない私語」の2つの領域に分類され、各9項目からなる。回答は「良いと思う」1点～「まずいと思う」5点の5件法で得点が高いほど私語に対する規範意識が高い。

3. 入学目的意識: 出口・吉田(2005)が作成した尺度を使用し学生の私語に対する入学目的意識を明らかにした。この尺度は、「学問の修得」「対人関係の構築」の2つの領域に分類され各8項目からなる。回答は「重視しない」1点～「重視する」5点の5件法で得点が高いほど入学目的意識が高い。

4. 社会的スキル: 菊池・堀毛(1994)が作成した尺度 Kiss-18 を使用し、学生の社会的スキルを明らかにした。この尺度は「初歩的スキル」「高度のスキル」「感情処理のスキル」「攻撃に代わるスキル」「ストレスを処理するスキル」「計画のスキル」の6つの領域に分類され各3項目からなる。

分析方法 私語の頻度、私語に対する規範意識、入学目的意識、社会的スキルおよび属性の記述統計を算出した。次に、私語の頻度、私語に対する規範意識、大学生生活目的意識、社会的スキルにおける下位尺度作成のため探索的因子分析(主因子法、プロマックス回転)を実施し因子構造を確認した。また、Cronbach α 係数を算出し私語の頻度、規範意識、入学目的意識、社会的スキルの内的整合性を検討した。規範意識・入学目的意識・社会的スキル・属性それぞれの因子間の関連を検証するため、Pearsonの相関係数を算出した。なお、5%水準で有意とし、相関係数 $r < .2$ をほとんど相関がない、 $r = .2 \sim .4$ を弱い相関、 $r = .4 \sim .7$ を中等度の相関、 $r = > .7$ を強い相関とした。さらに、私語の頻度との関連要因を検討するため、私語の頻度を従属変数とし、規範意識・入学目的意識・社会的スキル・友人の数・同居の有無・家族の数を独立変数とした変数減少法による重回帰分析を行った。その際、多重共線性的の問題を回避するために、独立変数間に強い相

関、および中等度の相関が認められた変数については、信頼性の低い「同居の有無」と「表面的社会スキル」を除去したうえで分析を行った。これら分析には統計パッケージ SPSS for Windows Ver. 19 を用いた。調査は横浜創英短期大学の研究倫理審査会の承認を得て実施した。対象者には調査の目的、調査協力による不利益は生じないこと、成績とは無関係であること、データは統計的に処理されること、学会等で発表すること、研究終了後に適切に処理することを説明し協力の同意を得た。既存尺度使用について開発者から承諾を得た。

結 果

調査対象者の特徴

回収率 看護短期大学 2 年次生 84 名中 79 名から回答が得られ、回収率 94% であった。

調査回答者の基本的属性 家族の数は 4 人が 30 人 (38.0%) と最も多く、同居ありは 64 人 (81.0%)、同居なしは 14 人 (17.7%) であった。友人の数は 0~5 人が 52 人 (65.8%)、6 人以上が 27 人 (34.2%) であった。

授業中の私語の頻度

授業中の私語の頻度で平均値が高かった項目は、授業の内容に関する疑問点について話した 3.12、次

Table 1 授業中の私語頻度の平均値

	平均値	標準偏差
A1 授業や勉強とは関係のない用事について話した	2.47	0.88
A2 授業の内容に関する疑問点について話した	3.28	0.85
A3 先生の話で聞き逃したことについて話した	3.13	0.87
A4 授業には関係のない冗談や笑い話をした	2.30	0.99
A5 授業に関する意見感想を話した	2.67	0.98
A6 板書でよく読めないところについて話した	2.91	0.98
A7 授業に対する不満について話した	2.38	1.02
A8 いま受けている授業とは関係のない他の授業や勉強に関する話をした	2.34	1.00
A9 授業の内容には関係のない世間話をした	2.18	1.03

n=79

に高かったのは、先生の話で聞き逃したことについて話した 3.13 であった。授業中の私語の頻度が高かったのは、授業の内容には関係のない世間話をした 2.18 で、次に低かったのは、授業には関係のない冗談や笑い話をした 2.30 であった (Table 1)。

私語に対する規範意識の平均値と度数

授業中の私語に対する規範意識で平均値が高かった項目は、授業の内容には関係のない冗談や笑い話

Table 2 授業中の私語の規範意識の平均値

	平均値	標準偏差
B1 授業や勉強とは関係のない用事について話すこと	4.30	0.74
B2 授業の内容に関する疑問点について話すこと	2.61	0.93
B3 先生の話で聞き逃したことについて話すこと	2.52	0.89
B4 授業には関係のない冗談や笑い話をする	4.42	0.78
B5 授業に関する意見感想を話すこと	3.09	0.98
B6 板書でよく読めないところについて話すこと	2.35	0.93
B7 授業に対する不満について話すこと	3.71	0.97
B8 いま受けている授業とは関係のない他の授業や勉強の話をする	4.10	0.89
B9 授業の内容には関係のない世間話をする	4.41	0.71

n=79

Table 3 入学目的意識の平均値

	平均値	標準偏差
C1 クラブやサークル活動をする	2.05	1.23
C2 幅広い教養を身につける	3.95	0.99
C3 友だちづくりを	3.66	1.11
C4 学問的な専門性を身につける	4.52	0.71
C5 いろいろな人と知り合う	3.81	1.12
C6 看護の資格や免許を取るための勉強を	4.76	0.51
C7 一生付き合える親友をつくる	3.38	1.18
C8 自分の将来に役立つ勉強を	4.71	0.54

n=79

Table 4 社会的スキルの平均値

	平均値	標準偏差
D1 他人と話していてあまり会話が途切れない方ですか	3.52	0.89
D2 他人にやってもらいたいことをうまく指示することができますか	3.05	0.92
D3 他人を助けることを上手にやれますか	3.44	0.80
D4 相手が怒っているときにうまくなだめることができますか	3.28	0.86
D5 知らない人とでもうまく会話が始められますか	3.27	1.08
D6 まわりの人達とトラブルが起きててもそれを上手に処理できますか	3.05	0.77
D7 こわさや恐ろしさを感じたときにそれを上手く処理できますか	3.10	0.84
D8 気まずいことがあった相手と上手に和解できますか	3.30	0.91
D9 仕事をするとき何をどうやったらいいか決められますか	3.30	0.76
D10 他人が話しているところに気軽に参加できますか	3.10	1.05
D11 相手から非難されたときにもうまく片付けることができますか	3.05	0.93
D12 学生生活の上でどこに問題があるか見つけることができますか	3.23	0.80
D13 自分の感情や気持ちを素直に表現できますか	3.32	1.03
D14 あちこちから矛盾した話が伝わってきててもうまく処理できますか	3.16	0.78
D15 初対面の人に自己紹介が上手にできますか	3.42	0.94
D16 何か失敗したときにすぐに謝ることができますか	3.96	0.90
D17 自分とは違った考えをもっていてもうまくやっていますか	3.63	0.89
D18 学生生活の目標を立てるのにあまり困難を感じないほうですか	3.24	0.94

n=79

をすること 4.42, 次に高かったのは、授業には関係のない世間話をすること 4.41 であった。授業中の私語に対して規範意識の低かった項目は、板書でよ

く読めないところについて話すこと 2.35 で、次に低かったのは、先生の話で聞き逃したことについて話すこと 2.52 であった (Table 2)。

入学目的意識の平均値と度数

短期大学入学目的意識で平均値が高かった項目は、看護の資格や免許を取るための勉強をすること 4.76, 次に高かったのは、自分の将来に役立つ勉強をすること 4.71 であった。入学目的意識の低かった項目は、クラブやサークル活動をすること 2.05 で、次に低かったのは、一生つきあえる親友をつくること 3.38 であった (Table 3)。

社会的スキルの平均値と度数

社会的スキルで平均値が高かった項目は、何か失敗したときにすぐに謝ることができますか 3.96, 次に高かったのは、自分とは違った考えをもっていてもうまくやっていますか 3.63 であった。社会的スキルで平均値が低かった項目は、他人にやってもらいたいことをうまく指示することができますか・まわりの人たちとの間でトラブルが起きててもそれを上手に処理できますか・相手から非難された時にも、それをうまく片付けることができますかの3項目が 3.05 であった (Table 4)。

私語の頻度、私語に対する規範意識、入学目的意識、社会的スキルにおける下位尺度の因子分析

私語の頻度、私語に対する規範意識、入学目的意識、社会的スキルにおいてそれぞれがどのような尺度で構成されているかを検討するために、項目ごとに因子分析を行った。私語の頻度に関する因子分析の結果、8項目2因子が抽出された。第一因子は5項目からなり、授業には関係のない冗談や笑い話をしたに最も負荷が高く、「授業内容と無関係の私語頻度」と命名した。第二因子は3項目からなり、授業の内容に関する疑問点について話したに最も負荷が高く、「授業内容に關係する私語頻度」と命名した。私語の頻度下位尺度の Cronbach α 係数は「授業内容に關係する私語頻度」 $\alpha = .87$, 「授業内容と無関係の私語頻度」 $\alpha = .93$ で信頼性を有していた (Table 5)。

私語に対する規範意識に関する因子分析の結果、9項目2因子が抽出された。第一因子は5項目からなり、授業や勉強とは関係のない用事について話すことに最も負荷が高く、「授業参加を妨げる私語への規範意識」と命名した。第二因子は4項目からな

Table 5 私語の頻度に関する尺度の因子分析 (主因子法・プロマックス回転)

	平均値	SD	因子負荷量	
			因子 1	因子 2
授業内容と無関係の私語頻度: 5 項目 ($\alpha=.929$)				
A4 授業には関係のない冗談や笑い話をした	2.31	0.99	0.93	-0.30
A7 授業に対する不満について話した	2.38	1.02	0.92	-0.07
A8 いま受けている授業とは関係のない他の授業や勉強に関する話をした	2.35	1.04	0.90	0.03
A9 授業の内容には関係のない世間話をした	2.18	1.03	0.71	0.13
A1 授業や勉強とは関係のない用事について話した	2.47	0.88	0.70	0.04
授業内容に関係する私語頻度: 3 項目 ($\alpha=.869$)				
A2 授業の内容に関する疑問点について話した	3.28	0.85	-0.60	0.98
A3 先生の話で聞き逃したことについて話した	3.13	0.87	0.06	0.89
A6 板書でよく読めないところについて話した	2.91	0.97	0.33	0.43

n=79

Table 6 私語の規範意識に関する尺度の因子分析 (主因子法・プロマックス回転)

	平均値	SD	因子負荷量	
			因子 1	因子 2
授業を妨げる私語への規範意識: 5 項目 ($\alpha=.881$)				
B1 授業や勉強とは関係のない用事について話すこと	4.32	0.73	0.89	-0.01
B9 授業の内容には関係のない世間話をする	4.40	0.71	0.88	-0.91
B4 授業には関係のない冗談や笑い話をする	4.44	0.77	0.84	-0.08
B8 いま受けている授業とは関係のない他の授業や勉強の話をする	3.71	0.97	0.72	0.04
B7 授業に対する不満について話すこと	4.12	0.89	0.58	0.25
授業理解を促進する私語への規範意識: 4 項目 ($\alpha=.921$)				
B6 板書でよく読めないところについて話すこと	2.35	0.93	-0.14	0.95
B3 先生の話で聞き逃したことについて話すこと	2.52	0.89	-0.50	0.94
B2 授業の内容に関する疑問点について話すこと	2.61	0.93	0.03	0.90
B5 授業に関する意見感想を話すこと	3.09	0.98	0.23	0.67

n=79

Table 7 入学目的意識に関する尺度の因子分析 (主因子法・プロマックス回転)

	平均値	SD	因子負荷量	
			因子 1	因子 2
対人関係取得目的: 5 項目 ($\alpha=.827$)				
C3 友達づくりをすること	3.67	1.11	0.90	0.06
C5 いろいろな人と知り合うこと	3.81	1.12	0.88	0.04
C7 一生付き合える親友をつくること	3.38	1.18	0.76	-0.02
C1 クラブやサークル活動をする	2.03	1.21	0.56	-0.21
C2 幅広い教養を身につけること	3.09	1.07	0.44	0.16
学問修得目的: 3 項目 ($\alpha=.839$)				
C8 自分の将来に役立つ勉強をすること	4.83	0.38	-0.06	0.97
C6 看護の資格や免許を取るための勉強をすること	4.91	0.33	-0.09	0.86
C4 学問的な専門性を身につけること	4.89	0.32	0.16	0.65

n=79

Table 8 社会的スキルに関する尺度の因子分析 (主因子法・プロマックス回転)

	平均値	SD	因子負荷量	
			因子 1	因子 2
基本的対人スキル: 11 項目 ($\alpha=.897$)				
D3 他人を助けることを上手にやれますか	3.44	0.79	0.94	-0.16
D2 他人にやってもらいたいことをうまく指示することができますか	3.05	0.91	0.93	-0.38
D4 相手が怒っているときにうまくなだめることができますか	3.28	0.86	0.74	-0.08
D6 まわりの人達とトラブルが起きてもそれを上手に処理できますか	3.05	0.76	0.65	0.07
D1 他人と話していてあまり会話が途切れない方ですか	3.52	0.89	0.55	0.07
D10 他人が話しているところに気軽に参加できますか	3.12	1.04	0.54	0.13
D5 知らない人でもうまく会話が始められますか	3.27	1.08	0.52	0.07
D7 こわさや恐ろしさを感じたときにそれを上手に処理できますか	3.10	0.84	0.52	0.30
D11 相手から非難されたときにうまく片付けることができますか	3.05	0.93	0.48	0.45
D14 あちこちから矛盾した話が伝わってきてもうまく処理できますか	3.16	0.77	0.44	0.25
D8 気まずいことがあった相手と上手に和解できますか	3.30	0.91	0.44	0.39
表面的対人スキル: 3 項目 ($\alpha=.686$)				
D16 何か失敗したときにすぐに謝ることができますか	3.96	0.89	-0.01	0.92
D17 自分とは違った考えをもっていてもうまくやっていけますか	3.63	0.89	-0.13	0.59
D18 学生生活の目標を立てるのにあまり困難を感じないほうですか	3.24	0.93	-0.12	0.56
(削除項目)				
D9 仕事をするとときに何をどうやったらいいか決められますか				
D12 学生生活の上でどこに問題があるか見つけることができますか				
D13 自分の感情や気持ちを素直に表現できますか				
D15 初対面の人に自己紹介が上手にできますか				

n=79

り、板書でよく読めないところについて話すことに最も負荷が高く、「授業理解を促進する私語への規範意識」と命名した。私語に対する規範意識における下位尺度の Cronbach α 係数は「授業参加を妨げる私語への規範意識」 $\alpha=.88$ 、「授業理解を促進する私語への規範意識」 $\alpha=.92$ で信頼性を有していた (Table 6)。

入学目的意識に関する因子分析の結果、8項目2因子が抽出された。第一因子は5項目からなり、友達づくりをすることに最も負荷が高く、「対人関係取得目的」と命名した。第二因子は3項目からなり、自分の将来に役立つ勉強をすることに最も負荷が高く、「学問修得目的」と命名した。入学目的意識における下位尺度の Cronbach α 係数は「対人関係取得目的」 $\alpha=.82$ 、「学問修得目的」 $\alpha=.84$ で信頼性を有していた (Table 7)。

社会的スキルに関する因子分析の結果、14項目2因子が抽出された。第一因子は11項目からなり、他人を助けることを上手にやれますかに最も負荷が高く、「基本的対人スキル」と命名した。第二因子は3項目からなり、何か失敗したときに、何をどうやったらいいか決められずか最も負荷が高く「表面的対人スキル」と命名した。社会的スキルにおける下位尺度の Cronbach α 係数は「基本的対人スキル」 $\alpha=.90$ 、「表面的対人スキル」 $\alpha=.69$ で信頼性を有していた (Table 8)。

私語の頻度と規範意識・入学目的意識・社会的スキル・属性との相関関係

規範意識・入学目的意識・社会的スキル・属性それぞれの因子間における相関関係において、高い相関が認められたのは、「同居の有無」と「家族の数」($r=.710$)であった。中等度の相関が認められたの

Table 9 規範意識・入学目的意識・社会スキル・属性間の関連 (Pearson の相関関係)

	授業理解を促進する私語への規範意識	授業参加を妨げる私語への規範意識	対人関係取得目的	学問修得目的	基本的対人スキル	表面的対人スキル	友人の数	同居の有無	家族の数
授業理解を促進する私語への規範意識	—								
授業参加を妨げる私語への規範意識	0.358**	—							
対人関係取得目的	0.039	-0.101	—						
学問修得目的	0.319**	-0.008	0.249*	—					
基本的対人スキル	-0.056	0.114	0.046	0.006	—				
表面的対人スキル	0.276*	0.288**	0.15	0.158	0.448**	—			
友人の数	0.123	0.168	0.132	-0.079	0.346**	0.247*	—		
同居の有無	0.032	0.082	0.026	0.079	0.107	0.032	-0.068	—	
家族の数	0.068	0.054	0.104	0.199	0.104	0.02	-0.079	0.710**	—

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, $n = 79$

Table 10 授業内容に関する私語頻度を従属変数とした重回帰分析結果

	私語頻度	
	授業に関する私語頻度	
	β	p
授業理解を促進する私語への規範意識	-.389	.000***
基本的対人スキル	.208	.050**
家族の数	.204	.054
R^2	24.4%	

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

β : 標準偏回帰係数

は、「基本的対人スキル」と「表面的対人スキル」($r = .443$)であった。そして弱い相関が認められたのは、「授業理解を促進する私語への規範意識」と「授業参加を妨げる私語への規範意識」($r = .358$)、「授業理解を促進する私語への規範意識」と「学問修得目的」($r = .319$)、「対人関係取得目的」と「学問修得目的」($r = .249$)、「授業理解を促進する私語への規範意識」と「表面的対人スキル」($r = .276$)、「授業参加を妨げる私語への規範意識」と「表面的対人スキル」($r = .288$)、「基本的対人スキル」と「友人の数」($r = .346$)、「表面的対人スキル」と「友人の数」($r = .247$)であった。これらはいずれも有意な正の相関であった (Table 9)

私語の頻度と規範意識・入学目的意識・社会的スキル・属性との関連

規範意識・入学目的意識・社会的スキル・属性が私語の頻度に与える影響を検討するために変数減少

Table 11 授業内容に無関係の私語頻度を従属変数とした重回帰分析結果

	私語頻度	
	授業に無関係の私語頻度	
	β	p
授業参加を妨げる私語への規範意識	-.336	.003**
家族の数	.224	.041*
R^2	15.5%	

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

β : 標準偏回帰係数

法による重回帰分析を行った。その結果、「授業内容に関する私語頻度」に負の影響を及ぼしていたのは、「授業理解を促進する私語への規範意識」($\beta = -.389, p < 0.000$)で、正の影響を及ぼしていたのは「基本的対人スキル」($\beta = .208, p < 0.050$)であった。これら変数の寄与率 (R^2) は 24.4% であった (Table 10)。「授業内容に無関係の私語頻度」に負の影響を及ぼしていたのは、「授業参加を妨げる私語への規範意識」($\beta = -.336, p < 0.003$)で、正の影響を及ぼしていたのは「家族の数」($\beta = .224, p < 0.041$)であった。これらの変数の寄与率 (R^2) は 15.5% であった。今回の調査では、入学目的意識と友人の数は私語の頻度に影響を及ぼしていなかった (Table 11)。

考 察

授業中の私語と規範意識および入学目的意識について

授業中の私語の頻度の平均値が高かったのは「先生の話で聞き逃したことについて話した」、「授業の内容に関する疑問点について話した」、「板書きでよく読めないところについて話した」の3項目である。これらはいずれも私語の頻度の第二因子「授業内容に関する私語頻度」に含まれ、学生は授業と無関係の私語に比べ、授業に關係する私語の頻度が高いことが伺える。また、授業中の私語の規範意識の平均値が高かったのは「授業の内容には関係のない世間話をする事」、「授業には関係のない冗談や笑い話をする事」、「授業や勉強とは関係のない用事について話す事」の3項目である。これらはいずれも私語に対する規範意識の第一因子「授業を妨げる私語への規範意識」に含まれ、学生は授業に關係する私語に比べ、授業と無関係の私語をしてはいけないという意識が高いことが伺える。岩渕・小牧(1996)が、私語に対して59%のものがしてはいけないという規範意識を持っているにもかかわらず、84.9%のものがしてしまうことを見出しているように、入学目的が明確とされている看護短期大学においても、多くの学生が授業に無関係の私語はいけないと認識しながら、実際には授業に關係する私語を高い頻度で行っているということが確認された。

また、入学目的意識において平均値が高かった項目は「看護の資格や免許を取るための勉強をすること」、「自分の将来に役立つ勉強をすること」、「学問的専門性を身につけること」の3項目である。これらはいずれも入学目的意識に關係する第二因子の学問修得目的に含まれ、看護短期大学生は友人や教養を得ることよりも、学業の修得に關係する意識を高く持ち大学に入学していることが確認された。

私語の頻度と規範意識・社会的スキル・属性との関連について

本研究で、「授業内容に關係する私語頻度」と関連していたのは、「授業内容に關連する私語への規範意識」と「基本的対人スキル」であった。「授業内容に關係する私語頻度」と「授業理解を促進する私語への規範意識」に負の回帰がみられたことから、授業理解のための私語に罪の意識を持たない学

生ほど、授業に關係する私語をすることが示された。また、「授業内容に關係する私語頻度」と「基本的対人スキル」に正の回帰がみられたことから、基本的対人スキルが高い学生ほど日常的に授業内容に關係する私語をしていることが示唆された。社会的スキルは対人關係を円滑にするスキルである(野崎, 1999)。家本(1999)がおしゃべりを友達づくりの入門行動と述べているように、学生は授業に關係することを話しながら友達との關係を構築していることが伺えた。

また、「授業に無関係の私語頻度」と関連していたのは、「授業参加を妨げる私語への規範意識」と「家族の数」であった。「授業に無関係の私語頻度」と「授業参加を妨げる私語への規範意識」に負の回帰がみられたことから、授業参加を妨げる私語をすることに罪の意識を持たない学生ほど授業に無関係の私語頻度が高いことが確認された。さらに、「授業に無関係の私語頻度」と「家族の数」に正の回帰がみられたことから、家族の人数が多いほど、授業に關係のない私語をしてしまう傾向があることが示唆された。松寄・小熊・嶋田(2005)は、核家族で兄弟が少なく過保護に育てられた家庭環境が、相手の立場に立った配慮が欠如し、ひいては授業中の私語への環境因子として影響することを報告している。本研究では、家族数が多く賑やかな日常を送ることに慣れている学生は、授業中においても私語をすることに抵抗が少ないことが推察された。

一方で、私語の頻度と入学目的及び友人の数の間に關連はみられなかった。資格取得という明確な学業目的の有無、友人の数は、私語の頻度に大きな影響を及ぼしていないことが示唆された。看護学生は学生生活のみならず、実習における患者や病院スタッフとの連携、授業中のグループワークなどが活発に行われ、コミュニケーションが授業の一環となる機会が多い。そのため、入学目的の有無や友人の数に關わらず、授業環境を通して対人關係を維持する手段を学んでいると推測される。

授業中の私語は、学習意欲の高い学生や勉学に対する動機が強い学生にとって明らかに授業の妨げとなる行為である。浅井(2006)が、私語対策として教師による統制と学生の自主性との調整を指摘しているように、私語を少なくするためには、教員側と学生側双方の取り組みが求められる。教員側は、ま

ず学生の名前を覚え関係性を構築し、授業形態を検討して、意識を集中させるような魅力ある講義を提供する必要がある。通常、一方通行になりがちな授業にこのような私語抑制のしかけを工夫することが今後の課題である。また学生側は、岩淵・小牧(1996)が指摘するように、授業中の私語を学生同士で注意することが本来望ましいと考える。しかしながら、澤田他(2012)が友人関係を構築していくという学生の特徴から、学生同士で注意しあうことの難しさを述べているように、本校においても学生側から、私語をする学生への注意喚起を教員に求める声があがっている。私語を減らし大学における授業を円滑に進め学習の質を高めるために、教員の授業方法改善への取り組みや、学生の自主性を生かした統制力の向上が今後早急に検討すべき課題といえる。

まとめと今後の展望

看護短期大学生の私語の頻度と属性・規範意識・入学目的・社会スキルとの関連では以下の事が明らかとなった。

1. 私語の頻度では「授業内容と無関係の私語頻度」、「授業内容に係る私語頻度」の8項目2因子が、私語に対する規範意識では「授業理解を促進する私語への規範意識」、「授業理解を妨げる私語への規範意識」の9項目2因子が、入学目的意識では「友人教養取得目的」、「学問修得目的」の8項目2因子が、社会的スキルでは「基本的対人スキル」、「表面的対人スキル」の14項目2因子が抽出された。
2. 「授業内容に係る私語頻度」に影響していた要因は、「授業理解を促進する私語への規範意識」と「基本的対人スキル」で、「授業内容に無関係の私語頻度」に影響していた要因は、「授業参加を妨げる私語への規範意識」と「家族の数」であった。
3. 私語の頻度と「入学目的」および「友人の数」の間で有意な差はみられなかった。

本研究の限界として、調査対象者数が短期大学の2年次生84名と少なかったことから、結果の一般

化には限界がある。今後は今回の調査で得られた私語の要因となる関連因子をさらに検討し、対象者数を拡大した調査を実施していくことが求められる。

引用文献

- 浅井亜紀子 2006 大学生の授業における規範意識と行動 カリタス女子短期大学紀要, 37-49.
- 出口拓彦・吉田俊和 2005 大学の授業における私語の頻度と規範意識 社会心理学研究, 21, 160-169.
- 家本芳郎 1999 私語・おしゃべりの教育学 家事出版, p. 33.
- 岩淵千秋・小牧一裕 1996 学生の授業に対する規範意識についての研究 日本グループ・ダイナミックス学会 第44回大会発表論文集, 174-175.
- 菊池彰夫 1988 思いやりを科学する 川島書店, p. 187.
- 菊池彰夫 堀毛一也編著 1994 社会的スキルの心理学 川島書店, p. 179.
- 向後千春 2011 eラーニングと実習を組み合わせたブレンド型授業の実践とガイドライン 日本教育工学会研究報告集, 11, 35-42.
- 松崎久美・小熊順子・嶋田美津江 2005 授業中の私語と学生の意識 浦和大学短期大学部 浦和論叢, 35, 71-105.
- 野崎千恵子・千田睦美・布佐真理子・三浦まゆみ 1999 看護大学生の社会的スキル 日本看護協会看護教育学会第30回発表論集, 74-76.
- 大石和男 2013 大学における私語問題を考える 立教大学コミュニティ福祉学部紀要第15号
- 小沢一仁・大島 武・森本倫代 2008 大学における授業の有り方を考える 東京工芸大学工学部紀要, 3, 76-89.
- 澤田和美・戸塚智美・鈴木 恵・椎野雅代 2012 看護短期大学の授業中の私語の頻度と規範意識との関連 横浜創英短期大学紀要, 8, 141-148.
- 島田博司 2002 私語への教育指導—大学授業の生態詩 2 玉川大学出版部, p. 32.
- 末永真由美・竹信優紀・飯塚雅子 2010 講義中のおしゃべりに関する調査 湘南短期大学紀要, 41-48.
- ト部敬康・佐々木薫 1999 授業中の私語に関する集団規範の調査研究—リターンポテンシャル・モデルの適応— 教育心理学研究 47, 283-292.

(受稿: 2014.9.30; 受理: 2015.2.2)